

平成 15 年「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	京都大学	整理番号	1-3-086
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	外国語教育の再構造化－自律学習型 CALL と国際的人材養成－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	赤岡 功		
(取組の概要)			
<p>広く国際社会で活躍する人材を養成するには、高度な外国語運用能力のための教育が必須である。京都大学では、他大学に先駆けて「自律学習型 CALL (Computer-Assisted Language Learning)」を英語の正規の履修課程に大規模（千数百名）に導入し、成果をあげている。主役は教える教師ではなく、学ぶ学生である。本学方式の自律学習型 CALL では、学生が CD-ROM 教材を使い自分のパソコンで、時空間に拘束されずに、自分の能力に応じて自ら学習できる。また、大学はわずかの設備を用意すればよい。</p> <p>この CALL による教員の教育負担の軽減分の活用やその他の工夫により、少人数の対面型指導の充実等、外国語教育の抜本的な再構造化に取り組んでいる。更に、本学独自開発の教材による初修外国語の CALL、及び次世代 CALL 技術・教材の自主開発とその利用を進めている。これらにより、学部から大学院に亘る「長期ステップワイズ学習」が可能になる。</p>			
(採択理由)			
<p>本プログラムは京都大学の「広く国際社会で活躍できる人材育成」を目標とするもので、自立学習型 CALL を導入し、CD-ROM教材を活用しているところを特徴としています。また、単に CALL 教材を導入したということにとどまらず、大学全体の教員の再配分も視野に入れた点が第二の特徴です。平成 8 年度から始まったプログラムであり、現在すで実績を上げてきています。また、教員の再配分により、教育目標を達成できることが十分に予測され、他大学の十分に参考になる教育プログラムと言えます。</p> <p>国立大学、科研費の成果であることなどを勘案すれば、すでに行っているように成果を社会に発信し続けることは義務であり、また、英語以外の教材の開発を続ける社会的責任を果たされることを期待します。</p>			